

# 社会福祉法人 SKY かわさき 令和 6 年度事業報告

## 1. 法人の動き

令和 6 年度は、社会福祉法人 SKY かわさき中期 3 カ年計画の最終年であった。

前年度コロナが 5 類感染症移行後、「きたのぼ」「はっぴわーく」「があでん・ららら」ではイベント企画・製品販売や地域との交流が増え、当年度は更に活気ある活動が展開された。又「紙ひこうき」を中心にバンド（ザ☆チキンハーツ）による音楽活動や、第 2 回「िकास！スカイ展」での芸術活動等の発表を行ない、当事者の表現活動の場が広がりを見せている。その他、法人の普及啓発事業として 6 月に開催した「破片のきらめき」ドキュメント映画上映とトークセッションで、100 名の参加者と共に芸術に取り組む当事者・関係者の方々との交流や意見交換ができた。

人権について学ぶ取り組みとしては、9 月に KP 神奈川精神医療人権センターの方を講師としてお招きし、「ご本人の希望、尊厳を重視した支援とは？」と題して研修会を行ない、SKY 当事者メンバー・職員共に参加し活発に話し合った。10 月には南米コロンビアのアンドレア・パラ弁護士に「ゆりあす」の「法律相談会特別版」にご参加いただき、先駆的な法改正や強制入院の廃止等の取り組みをうかがうことができ、日本での精神医療や福祉の課題を考えさせられた。

事業の拡大や再編の取り組みとしては、10 月より「ゆりあす」での移動支援事業活動がピアスタッフを中心に始まった。また、相談支援事業所「ひまわり」と地域活動支援センター「さくらスタジオ」の移転計画が進み、2 事業所の取り組みを生かした新しい連携を模索しつつ、実際の活動は次年度へ引き継がれている。

一方グループホームの事業については、急な国の給付の改定発表により大幅な給付の減算と人員配置基準の厳しさに、あわただしく対応を迫られた。今後のホームの事業についての課題整理をするため「ホーム特別委員会」を立ち上げ議論を進めてきた。課題解決には今後も更に検討をする必要がある。

年々深刻になっている福祉事業の経営の厳しさを実感する日々でもあるが、地域での当事者の生活を支える重要な事業を縮小させることなく、安定的な継続と広がりを目指していかなければならない。そして、後を絶たない人権侵害の問題・格差社会の深刻さ・不寛容な人間関係等、生きづらさが広がっている社会の中で人と人とのつながりを広げ、課題解決に向けて少しでも歩めるよう、次年度も検討を重ね法人の活動を進めていきたい。

## 2. 法人:重点項目の取り組み

### (1) 透明性、公益性の確保と地域ニーズの確認

- ① ホームページで情報開示（収支状況、苦情・事故報告）を行った他、随時のお知らせ欄の充実を図った。年に 2 回の広報誌で本部の動きと各所の活動内容、利用者の声を届けた。
- ② 地域とのつながりを深める取り組みの一つとして「川崎市市政 100 周年記念事業実行委員会」に登録。プレイベントではキッチンカーがあで

ん・らららのハーブソーダ等を販売。イベント全体で 18 万人の来場者があった「飛躍祭」でははっぴわーくのジャムを販売した。

- ③ ゆりあす地域ネットワーク会議等で地域ニーズを確認し、移動支援事業を 10 月より開始。延べ 31 件の活動を実施した。

## (2) 経営基盤の安定

- ① 事業所 2 ヶ所の移転と連携について検討をすすめた。給付改定のあった就労継続支援事業所は、工賃向上・利用率改善の影響で大幅に給付が増額したが、一方でグループホームでは大幅な減額があり、今後の課題となる。
- ② 会計クラウドを活用し、所長会議で月次決算を確認し法人経営の安定化に努めた。
- ③ 管理者に向けた積立金についての研修を実施し、事業展開の長期的目標設定と積立金の関係を学んだ。

## (3) 人材育成と世代交代

- ① 法人としての義務研修、会計研修、労務研修、委員会研修を計画的に実施した。
- ② 新役職者を任命し、所長会内の役割を新所長が担う等世代交代に努めた。
- ③ 新所長任命を受け主任会の構成が変化したため、所長会との連携を図りながら権限委譲をすすめた。

## 3. 会議報告

### 1) 評議員会

定時評議員会として 6 月に開催したほか、必要な場合に開催した。令和 6 年度は、10 月と 3 月に開催した。

#### (1) 評議員構成(定款：7 名以上 9 名以内)

\*令和 6 年 6 月定時評議員会終結まで

岡部健、坂本勉、十文字陽一、池原毅和、田草川武、武田龍太郎、谷みどり、築根俊明

\*令和 6 年 6 月 21 日から

飯村史恵、坂本勉、十文字陽一、武田龍太郎、谷みどり、築根俊明、中澤伸、三村健、宮澤たい子

#### (2) 評議員会の開催状況

##### 第 1 回(定時)評議員会

日時：令和 6 年 6 月 21 日 18:00~20:00

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員 7 名、理事 6 名、監事 2 名、事務局 2 名、他 2 名

審議事項：令和 5 年度事業報告、令和 5 年度決算報告(計算書類及び財産目録の承認)、理事・監事の選任、定款変更

## 第2回評議員会

日時：令和6年10月25日18:00～20:20

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員8名、理事6名、監事2名

報告事項：第2期3カ年計画について（経過報告及び意見交換）、防災対策

## 第3回評議員会

日時：令和7年3月21日18:00～20:00

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員8名、理事6名、監事2名

報告事項：第2期3カ年計画について、令和6年度事業計画、  
令和6年度予算

## ※評議員選任解任委員会

日時：令和6年6月21日17:30～18:00

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：委員3名 増田康次、三村健、鶴田裕、事務局1名

決議事項：評議員の選任

## 2) 理事会

当法人の業務執行の決定、理事の職務執行の監督を行った。6月、3月ほか必要な場合に開催した。令和6年度は計4回開催した。役員構成と開催状況は下記の通り。

### (1) 役員構成(定款：理事6名以上8名以内、監事2名)

\*令和6年6月定時評議員会終結まで

理事：三橋良子、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、金森孝之

監事：竹下とし子、三村健

\*令和6年6月定時評議員会から

理事：青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、金森孝之、鶴田裕

監事：三橋良子、上蘭朗

### (2) 理事会の開催状況

#### 第1回理事会

日時：令和6年6月4日18:00～19:45

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事2名、事務局1名

審議事項：令和5年度事業報告(案)、令和5年度決算(案)・監事監査報告、  
令和6年度6月-3月処遇改善計画、令和6年度第1次補正予算(案)、  
新規事業「移動支援事業」について、定款変更(案)、評議員候補者  
の選任、評議員選任・解任委員会の招集、理事・監事候補者の選任

及び評議員会における監事選任の承認について、定時評議員会の招集

#### 第2回理事会

日時：令和6年6月21日20:00～20:10

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事1名、事務局1名

決議事項：理事長及び業務執行理事の選定

#### 第3回理事会

日時：令和6年10月8日18:00-20:30

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事2名、事務局1名

報告事項：理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

審議事項：就業規則・給与規程の改定、役員賠償保険の更新、評議員選任・解任委員の選出、役職手当の改定について（経過報告）、第2期3カ年計画の立案について（経過報告）、評議員会の招集

#### 第4回理事会

日時：令和7年3月4日18:00-20:30

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事2名

報告事項：理事長および業務執行理事の職務執行状況の報告

審議事項：役職人事について、規程変更、非常勤職員雇用条件の整備について、令和6年度補正予算（案）、第2期3カ年計画（案）、令和7年度事業計画（案）、令和7年度予算（案）、評議員会の招集

### 3) 本部会議

事業、人事、労務、総務にかかわる事項を検討・審議した。

構成員：三橋良子（～令和6年6月）、青野眞美子、嘉門琢美、大友わかさ

開催場所：本部事務所、地域活動支援センター紙ひこうき

開催回数：隔週1回 合計23回

### 4) 所長会

各事業所およびその他の事業について協議し、理事会議事の提案事項を検討。

「安全管理委員会」、「苦情解決委員会」、「情報管理委員会」を同時開催。

構成員：三橋良子（～令和6年6月）、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、  
篠原宏江、金森孝之、鶴田裕、伊藤美津子、田中敦子、吉岡育美

開催場所：地域活動支援センター紙ひこうき

開催回数：毎月1回 合計12回

#### (1) 安全管理委員会

各事業所における事故報告・ヒヤリハット等の報告事項を共有し再発防止につ

いて協議した。所長会と同日開催。

## (2) 苦情解決委員会

各事業所における苦情等の報告事項を共有し再発防止について協議した。所長会と同日開催。

## (3) 情報管理委員会

法人内のデータ一元化にかかる事項を共有し、課題と今後の方針について検討した。現在使用しているクラウドサービスの契約が令和7年度末で終了になるため、移行作業について検討した。所長会と同日開催ほか4回実施した。

## (4) 特別委員会

「共同生活援助事業（以下グループホーム）の今後を考える特別委員会」を構成し、グループホームの現状と課題、今後課題となっていく予測も含め整理し、改善策を模索した。

高齢化に伴う支援の変化、通過型入居者のアパート探しの難しさ、グループホームで暮らすための条件、給付減など財政状況の困難の打開案、災害(特に水害)時の事前準備、建物修繕費用増加の課題。課題解決のために自力での限界を見定め、事前の連携先を増やし深めることが整理できた。また、地元不動産業者との連携が深まり、専門的な助言をいただいた。今後も契約書の見直し、ホーム支援の在り方、財政状況の改善など、残された検討課題を話し合い、改善に向けてすすめていく。

構成員：藤井恵美子、青野眞美子、山下弘子、望永和美、篠原宏江、  
金森孝之、大友わかさ

開催場所：グループホーム すみれ

開催回数：計5回

## 5) 主任会

各事業所の活動報告を共有し、連携を図った。広報、普及啓発、研修、防災委員会からの報告事項を協議した。

「感染対策検討委員会」「身体拘束等防止委員会」「虐待防止委員会」を同日開催。

構成員：石井美樹、今井歩美、早坂勇氣、藤井恵美子、三瓶友樹、望永和美

開催回数：毎月1回 合計12回

### (1) 感染対策検討委員会

今年度は、各事業所にて研修と訓練を2回実施し、感染症蔓延を防止するための方策について意見交換する機会を設けた。各事業所内での実施、振り返りに加えて主任会でも共有することの意義も再確認できた。感染症(コロナ)発生関連記録については、注意喚起に役立てるため継続した。

構成員：8名

開催回数：計12回（主任会同日開催）

### (2) 身体拘束等防止委員会

今年度は、虐待防止委員会と一体的に活動を行い、毎月の件数報告、実施義務項目の整備に取り組んだ。また、この他に KP 神奈川精神医療人権センター藤井

氏、三瓶氏をお招きし、研修委員会と合同で虐待・身体拘束等防止研修を実施した。研修に参加できなかった職員は当日撮影した研修会の動画を視聴した。

構成員：8名

開催回数：計12回（主任会同日開催）

### (3) 虐待防止委員会

今年度は、身体拘束等防止委員会と一体的に活動を行い、毎月の件数報告、実施義務項目の整備に取り組んだ。また、この他に KP 神奈川精神医療人権センター藤井氏、三瓶氏をお招きし、研修委員会と合同で虐待・身体拘束等防止研修を実施した。研修に参加できなかった職員は当日撮影した研修会の動画を視聴した。

構成員：8名

開催回数：計12回（主任会同日開催）

### (4) 広報委員会

SKY かわさき通信を年2回（51号、52号）発行。事業所活動報告他、法人内委員会やイベント記事等、充実した内容を掲載できた。法人パンフレットについては細部の修正・写真の差し替えを行い、増刷に向けての調整、準備を進めた。合わせて法人ホームページについても古い写真の差し替えを行うため、イベントにて撮影を行い、準備を進めた。

構成員：4名

開催回数：計6回

### (5) 普及啓発委員会

「地域とのつながりを深め、地域ニーズを確認していくため、法人主催のイベント開催に向けた企画・検討をすすめる。」という計画に基づき以下の活動を行った。

#### ① 令和6年度イベントの開催

日時：令和6年6月24日午後

場所：川崎市アートセンター アルテリオ映像館

内容：映画「破片のきらめき～心の杖として鏡として～」上映、トークセッション、平川病院造形教室の作品展

#### ② 令和7年度のイベント開催に向けて企画・検討

日時：令和7年6月21日午後

場所：PAZ COFFEE SHOP（多摩区登戸）

構成員：5名

開催回数：計9回

### (6) 研修委員会

① 身体拘束等防止・虐待防止・研修委員会 合同研修「令和6年度身体拘束・虐待防止研修 日々立ち止まって振り返る～支援の権利侵害について考える～（日々の支援、精神医療との関わり）」

日時：9月25日14:00～17:00

場所：多摩市民館大会議室

KP 神奈川精神医療人権センターの藤井会長、三瓶氏を講師に、58名の法人職員と法人事業所利用者が参加した。講義では、無意識の権力行使やパターンリズムに気づくこと、虐待防止には職場の風土づくりや「管理ではなく対話」をしていくことが重要であることが話された。グループワークでは、支援をする立場と受ける立場、それぞれの意見を共有した。研修会を通して職員と利用者が共に参加し学びあう場を設けたことは有意義であった。

## ② SKY 業務報告会

日時：2月26日 13:30～16:30

場所：北部リハビリテーションセンター大会議室

92名（法人利用者・職員62名、家族・地域関係者30名）が参加した。利用者の日中の様子を、利用者と職員が協同して報告できた一方で、事業を行う上での苦悩や当事者の深い思いを発信しきれなかったという課題も残った。発表のテーマの設定を見直すとともに、当事者の思いを引き出していくような対話や働きかけを、日々の支援の中で行っていくことが必要であることに気づいた報告会となった。

構成員：5名

開催回数：計9回

## (7) 防災委員会

グループホームの参集拠点ごとに集まり、入居者と一緒に避難経路確認や通報訓練、避難リュックの確認や防災用簡易トイレの使い方実践を行った。

BCP（業務継続計画）については、研修・机上訓練として架空の状況設定を用いてBCP冊子の読み込みや個人ワーク、事業所間でのグループワークを実施した。また、LINEWORKSでの実践訓練を行い、冊子の見直しも行った。

構成員：5名

開催回数：計8回

## 4、事業別報告

### 1) 障害福祉サービス事業

#### (1) 共同生活援助事業所 ホーム SKY

場所	あんじょうやりや、きらくや、すみれ（多摩区登戸） みかんハウス、ふらっと（多摩区栗谷） カンタービレ（麻生区百合丘）
対象者	定員 40 名
新規利用者	3 名（入院 1 名、他 2 名）
退所者	6 名（自立 4 名、他施設 1 名、入院 1 名）
利用実績	実数 43 名/年（1 年間の利用人数）
開所日数	365 日
職員数	常勤専任 5 名、常勤兼務 3 名、非常勤 20 名

#### 事業報告

・入退居支援 自立での卒業の方は 4 名、3 名はアイビーに繋げて支援を継続。サテライトから自立した 2 名の方は、名義変更が認められアパート探しの困難はなかったが、新サテライト物件を探すことが困難になっている。また卒業後の住まいの確保の難しさについて、川崎市の居住支援のワーキングで研修や情報交換を行った。

・高齢入居者への対応 3 月 31 日現在、65 歳以上の入居者 9 名（内 70 歳以上 5 名）高齢のため持病の悪化や病気の発症、精神的課題への対応のため、個別相談だけでなく、受診同行、買い物支援（同行や注文相談）、家事や身の回りの支援が増えているが高齢事業所や訪問診療の導入など他機関との連携で支援を始めている。高齢者施設への移行は介護度や経済的な課題もあり難しい状況は継続している。

・健康についての支援 コロナ以降の体調管理支援を継続している。精神科入院についてはご本人との話し合いや、入院同意に時間をかけて取り組んでいるが、医療保護入院での入院が避けられない現状がある。

・その他 物件が 10 年以上となり、メンテナンス等の課題が増えている。

#### <活動内容>

- ・支援計画作成 面談、関係機関やご家族との調整、ケア会議
- ・日常生活支援 原則週 1～2 回の定期訪問支援（家事支援、部屋の管理等）相談支援、同行、通所支援・服薬管理支援。週 5 回の夕食提供、レクリエーションや交流企画、健康チェックの確認。看護師による体調確認。
- ・自立生活移行支援 卒業に向けてのカンファレンス、関係機関との調整 部屋探し 卒業目標の方のグループワーク 引っ越しや手続きの支援他
- ・入居支援（入居時面談、カンファレンス、関係機関との連携、手続き調整、引っ越し支援、必要物品購入等新生活の相談等

#### <地域との連携>

- ・障施協 グループホーム部会の出席
- ・川崎市居住支援ワーキング出席
- ・多摩区麻生区自立支援協議会出席
- ・地域ネットワーク会議の実施
- ・各ユニットの町内会への参加

## (2) 自立生活援助事業所 アイビー

場所	アイビー本部（共同生活援助事業所すみれ内 多摩区登戸）
対象者	利用者 5名
新規利用者	2名
退所者	1名
利用実績	実数 126名/年（1年間の延べ利用人数）
開所日数	112日（別途夕食サービス週2日×1名、週1日×2日 電話対応、支援計画面談等を実施）
職員数	常勤兼務4名、非常勤兼務2名

### 事業報告

令和4年1月より開始され、3年が経った。ホームから自立生活へ移行した方のアフターケアを目的とし事業を行ってきた。自立生活への不安を感じる方も、アイビーの訪問や同行支援、電話での連絡相談、夕食サービスを利用し、自立への自信を得て、地域生活を送っていただけるよう、利用者、関係者と話し合いながら取り組んでいる。今年度の訪問は103件、同行は23件、夜間の電話対応（22時以降）は0件であった。自立生活援助を3年利用した方が1名支援終了となった。2年目の利用者は1名、今年度開始した利用者は3名となった。1年以上の利用はサービス調整会議を経て利用継続が可能となる。自立生活援助の必要性について相談支援と検討を行い、地域生活を持続していくために必要な社会資源の利用について検討を行った。支援終了に伴い、法人内の移動支援につながるケースもあった。今後は自立生活援助の利用中に必要な障害福祉サービスにつなげていけるよう、より相談支援との連携を強化していく必要があると考える。グループホームの業務と自立生活援助業務の兼務については、連携がとりやすい反面、業務の時間確保が課題であった。持続可能な社会資源の一つになっていくために運営について法人全体で考えていく必要があると考える。

#### <活動内容>

- ・ご本人の自宅への訪問と、利用者の希望に応じて随時の訪問
- ・買い物、受診、手続き等の同行支援
- ・24時間連絡を受けることが可能な体制作り（夜間、休日は緊急携帯対応）
- ・法人独自のサービスとして夕食サービス（週1～2回）の実施。
- ・3か月ごとの支援計画、モニタリング

#### <地域との連携>

- ・各利用者の相談支援事業所、訪問看護事業所、関係機関との連携
- ・各不動産会社との連携

### (3) 就労継続支援B型事業所 はっぴわーく

場所	多摩区登戸 2959
対象者	利用者 36名
新規利用者	3名
退所者	1名（他資源への移行1名）
利用実績	実数 4,182名/年 平均利用者数 17.57名/日
開所日数	258日（内、平日238日、休日20日）
職員数	常勤専任4名、非常勤4名
その他	工賃時給180円～730円（他、上期下期手当あり） 工賃支払総額 5,194,401円/年

#### 事業報告

令和6年度は「利用者の受入れと定着に力を入れ、活気と安定の両立した事業運営を行うこと」を柱に掲げ、日々平均利用は年間で約1.5名増。作業以外のレクや研修・िकासスカイ展などへの参加率も高く、利用者の方が仕事以外の生活の豊かさも大事にされている様子をうかがえる年となった。工賃面では開所以来同額だった内職部門の時給が上がり、やりがいにつながると多くの声がきかれ、利用人数増や生活の豊かさとともに活気を感じられる一年となった。

一方で、R5年から利用者受入れに力を入れる中で、職員数は変わらずに行っていた影響もあってか、ジャムの自主回収や内職の仕事調整の必要性などが生じる事もあり「安定」には課題がみられ、職員増員を行った。今後も必要なゆとりを持ちながら、利用者の自信と安心に寄与できる運営を行っていきたい。

【ジャム部門】時給40円UP。入院中の方へ涼しさを届ける出張かき氷実施。

新ラベルの導入による作業改善。自主回収再発予防としての設備検査等。

【内職部門】時給40円UP。レアウト変更にて作業環境改善。取引先との関係構築による受注量安定。ベースとなる作業における専属機種受注。

【清掃部門】北リハ部門時給50円UP。清掃の質確保の為に職員研修実施。マンション清掃の暑さ対策としてベスト購入・アーク発生日の時短対策実施。

#### <活動内容>

- ・登戸作業部門：ジャム製造・販売、軽作業、マンション清掃、ポスティング
- ・北リハ清掃部門：北部リハビリテーションセンター清掃
- ・その他：ミーティング、作業講座、レクリエーション、日帰り旅行等

#### <地域との連携および販売協力等>

- ・イベント販売：登戸・多摩川マルシェ／パサージュ・たま（8回）／ハーブ祭り／たまふれあい祭り／花と緑の市民フェア／アルテリオ映画上映会／登戸マルシェ（2回）／かわさき飛躍祭／まじわーる祭り／民家園通り夏まつり／武田病院出張かき氷販売会・文化祭／きた・紙ひこうき夏祭り／生田病院かき氷販売会／登戸デポ・出張販売／北リハフェスタ／丸山幼稚園祭り／JA農業祭り／SORA市／なごみ保育園バザー／さくらまつり
- ・委託・注文販売（敬称略・団体のみ）：はぐるまの会／イーストファーム／灰吹屋／美遊 JAPAN／HOTEL-ARU-KSP／2416MARKET／紀伊国屋アトレ武蔵小杉店、シアル横浜店、鎌倉店、ラスカ平塚店／のものグランスタ丸の内店、秋葉原店、上野店／（株）マタハリー／ソーシャルデザインセンター／があでん・ららら／きたのぼ／北部リハビリテーションセンター／多摩区社会福祉協議会／川崎市健康福祉局／（株）デジタルレシピー／カラス女子中学高等学校／川崎キングスカイフロント東急 rei ホテル／ぶらりば／日本福祉教育専門学校

#### (4) 就労継続支援B型事業所 があでん・ららら

場所	麻生区下麻生 3-32-5
対象者	利用者 32名
新規利用者	7名
退所者	7名（一般就労2名、他資源利用1名、転居3名、その他1名）
利用実績	実数 3,648名/年 平均利用者数 15.4名/日
開所日数	237日（内、平日221日 休日16日）
職員数	常勤専任3名、常勤兼務1名、非常勤8名
その他	工賃時給：150～500円 工賃支払総額 2,368,167円/年

#### 事業報告

5年ぶりに開催した「ハーブまつり」では、利用者・職員が一体となり準備を進めた。当日はボランティアや出展者等の協力もあり、約500名の方にご来場いただき、大盛況の内に終了することが出来た。昨年から今年にかけて4名の方が一般就労に進み、卒業生に対し関係機関と連携しサポートすることで、職場への定着に繋がるよう努めた。また、今年度より自主的活動の一環としてレク部が発足し、年4回のレクリエーションに取り組むことで、利用者間の親睦が深まり、通所意欲向上の足掛かりとなった。

工賃事業では、地域イベントの広報により、例年よりも喫茶の来客数が増えた。また、各班協力し、計画的なハーブの収穫を行うことで例年以上の収穫量となった。生産量は試験的な機械導入等をおこなうも、需要に供給が追い付かず、次年度以降も継続した課題となる。

#### <活動内容>

園芸、喫茶、焼菓子、ハーブティー、クラフト、販売、MT、学習会（健康学習会、就労MT、販売練習会、活動報告、防災訓練など）、レクリエーション

#### <地域との連携>（敬称・法人格略、団体のみ、50音順）

A S A O健康井戸端会議、麻生総合高校、麻生区社会福祉協議会、麻生区自主製品販売連絡協議会、おやじ考、川崎市都市農業振興センター、カリタス女子中学高等学校、さしす、里山フォーラム、下麻生自治会、社会空間研究所、東柿生小学校、川崎市地域包括ケア推進室、まぶね教会、緑化フェア推進室など

#### <販売協力>（敬称・法人格略、団体のみ、50音順）

アクセント、麻生支援学校、あさおのお店、麻生老人福祉センター、イーストファーム、生田病院、伊藤タクシー、柿の実幼稚園、金井原苑、CAFÉPOP!、カリタス女子中学高等学校、CANDYACTION、渋谷教会、社会空間研究所、SlowFarm、セラサモス麻生・宮前、泰山木の会、武田病院、ドリーム、デジタルレシピ、熱源、花きりんの会、はなまる塾、東柿生郵便局、春らって、ぶらりば・りあん、ふるさと納税返礼品、美遊 J A P A N、渡辺クリニック、REGANERO、各区区役所、各区社会福祉協議会など

## 2) 相談支援事業

### (1) 地域相談支援センター ひまわり

場所	麻生区百合丘 1-20-7 白井ビル 2 階	
対象者	利用者 141 名	
新規利用者	22 名	
終了者	11 名（他区・他市のグループホームへ入居 2 名、他区・市への転居 5 名、介護保険への移行 1 名、支援の終了希望 2 名、死去 1 名）	
利用実績	実数 2,085 件/年	平均利用者数 9 名/日
開所日数	238 日	
職員数	常勤専任 3 名	
その他	一般相談 141 名	計画作成 9 名

#### 事業報告

地区担当制の周知が進んだからか、令和 6 年度についても、生活保護課、地域支援課、社協、医療機関等から、担当エリアの方の相談が直接入るようになっている。さらに今年度は、児童にかかわる相談も増加、いっそう幅広い分野の制度や社会資源等に関する知識、関係機関との協働が重要だと感じられた。

また、重度の障害があるため日中も支援が必要な方を対象とした、日中サービス支援型グループホームや、ナーシングホーム等への入居希望者は依然として多く、その場合、計画相談の引継ぎを含め他区・市外の事業所とも関わりを持つことが必要になってくるため、広域的な支援が必要になってきていることを実感している。

#### <活動内容>

- ・個別支援や、会議への参加等を通じた地域の支援者へのバックアップと、関係機関とのネットワークの構築
- ・災害時個別支援計画の作成および、日頃からの防災への働きかけ
- ・区地域自立支援協議会企画運営会議、協議会ワーキング、サービス調整会議、相談支援事業所連絡会、定例会、GSV、相談支援調整会議への参加
- ・権利擁護ために必要な支援として、成年後見制度利用支援、虐待コアメンバー会議への参加
- ・地域ネットワーク会議では、金銭管理に課題を抱える方の支援について、麻生区あんしんセンター、やまて企業組合、司法書士の方々と意見交換をおこない、連携に必要な関係性の構築につとめた
- ・相談支援従事者研修に演習講師として参加、インターバル実習にも協力し、基幹相談支援センターとともに地域の人材育成に携わった

#### <地域との連携>

- ・ASAO 健康井戸端会議への参加
- ・北部メンタルヘルスネットワーク会議への参加
- ・区内各地区の「地域情報交換会」への参加

## (2) 相談支援事業所 かみひこうき

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	利用者 28 名
新規利用者	6 名
退所者	2 名（サービスの終了）
利用実績	273 件（下記活動報告参照）
開所日数	250 日
職員数	常勤兼務 3 名（きたのば・紙ひこうき兼務）
その他	計画ならびにモニタリング作成 92 件

### 事業報告

常勤職員 3 名がグループホームや自立生活援助事業所、就労継続支援 B 型事業所、居宅介護等を利用している方の計画相談支援をおこなった。

### <活動報告>

電話相談 42 件、来所相談 38 件、訪問 64 件、同行支援 8 件  
個別支援会議 18 件、関係機関連携 103 件、手紙等 0 件

### <地域との連携>

- ・北部基幹相談支援センターとの情報交換会
- ・相談支援事業所連絡会
- ・川崎市地域自立支援協議会全体会議出席
- ・障害者相談支援ネットワークミーティング

### 3) 地域生活支援事業

#### (1) 地域活動支援センター きたのぼ

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	利用者 30 名
新規利用者	3 名
退所者	3 名（入院 1 名、他資源移行 2 名）
利用実績	実数 1,952 名/年 平均利用者数 9.0 名/日
開所日数	242 日
職員数	常勤専任 2 名、常勤兼務 1 名、専門職非常勤 1 名、非常勤 2 名
その他	工賃時給：100 円、工賃支払総額 545,898 円/年（手当あり） 実習生受け入れ 3 名

#### 事業報告

電話による問合せは年間 19 件、うち 3 名が新規登録した。一方で長期入院や就労移行支援事業所への卒業により 3 名が退所した。2 月に紙ひこうきと合同で地域ネットワーク会議をおこない、講師を招いて職員とメンバー、近隣事業所や精神科病院、関係機関等 24 名と共に、災害時の避難に係る学びや各所での取り組みなど情報交換をおこなった。自主製品については 24 回の販売に参加したり 3 ヶ所に委託販売をしたり、自主製品を通して地域の方と顔の見える関係作りに努め、広報啓発をおこなった。また年間の販売スケジュールを作成し、在庫過多にならないよう意識した一方で、突発的な販売や大量注文の依頼に苦慮した。レク活動は、日頃ひとりで過ごす方も多く、一緒に調理したり体を動かしたり、食事や楽しい気持ちを共感するものが人気だった。就労を希望する利用者の方もいるが、就労継続 B 型や就労移行支援事業所を目指す傾向が増えている。社会の変化に伴う事業所の機能や方向性の見直しは、今後の大きな課題である。

#### <活動内容>

自主製品作りと販売、軽作業、法人内事務委託、ウォーキング、室内での会食と外食レク、SKY 映画上映会、フラダンス、大人食堂（夕食会）、紙ひこうき合同秋祭り、SKY 業務報告会、地活合同バスレク、調理と会食（カレー、餃子、ケーキ）、プラ板キーホルダー作り、消防訓練、避難訓練

#### <地域との連携および販売協力等>

ゆきわり草、コスモスの会、武田病院、パサージュ・たま、公害・環境まちづくりフェスタ、多摩ふれあいまつり、KAWASAKI 産 SUN フェスティバル、北リハフェスタ、ふれあいバザール、SORA 市、Café POP、多摩区 SDC、らららハーブまつりとクリスマスマーケット、のぼりと福祉フェス、なごみ保育園、登戸台和さくらまつり、紙ひこうき合同地域ネットワーク会議、िकास！スカイ展、のぼりとミーティング、多摩区ネットワーク会議

## (2) 地域活動支援センター さくらスタジオ

場所	麻生区片平 2-29-1-B1
対象者	利用者 35 名
新規利用者	4 名
退所者	3 名（在宅 1 名、他資源への移行 2 名）
利用実績	実数 1,114 名/年 平均利用者数 4.7 名/日
開所日数	246 日
職員数	常勤専任 1 名、常勤兼務 1 名、非常勤 2 名

### 事業報告

令和 6 年度の重点目標は 3 点。1 点目の地域ニーズの確認については移転後に地域ネットワーク会議の開催を計画していたが、移転が遅れたため年度内の開催を見送った。次年度、移転先の新たな地域での関係づくりを目指す。2 点目の地域に向けた活動として SNS 等での活動紹介の他に、イベントや福祉まつりで初めてワークショップを行ったり、イカス！スカイ展や Colors かわさき展での作品展示を行ったりと、広がりを持つことができた。また公開プログラム「咲 LIVE」ではご家族や利用希望の方、他事業所メンバー等多くの方にご参加いただき日頃の活動を紹介することができた。3 点目の事業所移転については現在の活動場所と同エリアの柿生地区内に決まり、次年度の区切りに併せて新たなスタートを迎えることができた。

#### <活動内容>

昼食の日、ゲーム大会、絵画、映画鑑賞、YouTube 鑑賞、ストレッチ、卓球、脳トレ、カラオケ、季節のパーティー、大掃除、咲 CLASS、咲 LIVE、防災訓練、SKY 業務報告会、地活合同バスレク

#### <地域との連携>

- ・麻生区社会福祉協議会在宅福祉サービス委員会・麻生福祉まつり

### (3) 地域活動支援センター 紙ひこうき

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	利用者 61 名
新規利用者	9 名
退所者	11 名（終了希望 5 名、他資源利用 3 名、死去 2 名、転居 1 名）
利用実績	実数 2,933 名/年 平均利用者数 12.3 名/日
開所日数	250 日
職員数	常勤兼務 3 名、非常勤 1 名
その他	実習生受け入れ 3 名

#### 事業報告

今年度も昨年度に引き続き「地域交流」を目標に掲げ、従来のプログラム活動の他に事業所外の活動にも力を入れてきた。新しい取り組みとしては、ギターサークルと合唱部が合体した音楽バンド「ザ☆チキンハーツ」の結成が挙げられる。初舞台となる多摩ふれあいまつり大ホール出演のため、集まった利用者 11 名と職員が一体となって練習を積み重ね、本番当日は出演者だけでなく応援メンバーも多数参加し、皆で達成感を味わえた貴重な体験をした。この出演がきっかけとなり、全日本年金者組合、あやめ会、みんなねっと関東ブロック大会、韋駄天カフェより出演依頼をいただき、表現する場を与えてくださったことに感謝の思いである。また、昨年度からはじめた寺子屋事業「ぬりえ教室」も東生田小学校だけでなく認知症カフェでも開催できたことや、「第 2 回イカス！スカイ展」も SKY 事業所の協力のもと実施することができ、地域交流の世代も子供からご年配の方まで幅を広げてきたといえよう。利用者自らが積極的に、地域での活動を楽しんで取り組んでいる姿が印象的であった。

きたのばと合同で行った地域ネットワーク会議は、防災をテーマに利用者はじめ近隣の福祉施設や、訪問看護事業所、病院、社協、地域ケア推進課をお招きし、多摩区危機管理担当より「ぼうさい出前講座」を実施。各所の防災対策や、災害時連携できることは何か等、ともに防災について考えることができた。

全体的に事業所内外の活動については活発化しており、平均実利用人数も微増しているが、新規利用者の定着については課題が残る。利用者それぞれの「いい場所・居場所」となるための取り組みを今後も模索していきたい。

#### <活動内容>

ミーティング、プログラムミーティング、目安箱、合唱、健康 5 分体操、ザ☆チキンハーツ練習、音楽紹介の会、手芸、ストレッチ体操、映像制作の会、だべりば、ことば CLUB、ヨガ、ウォーキング、紙ひこうき弁当、昼食サービス、中・大掃除、スイーツ CLUB、きたのば合同秋祭り、クリスマス会、新年会、外出レク、地活合同バスレク、防災訓練

#### <地域との連携>

きたのば合同地域ネットワーク会議、パサージュ・たま、多摩ふれあいまつり、ぬりえ教室、ザ☆チキンハーツ出張演奏、第 2 回イカス！スカイ展、実習生受け入れ、ピア活動地域交流会実行委員会

#### (4) 北部地域生活支援センター ゆりあす

場所	麻生区百合丘 2-8-2 北部リハビリテーションセンター2階
対象者	利用者 246名
新規利用者	16名
退所者	3名（他資源移行1名、死去1名、転居1名）
利用実績	実数 4,381名/年 平均利用者数 15.0名/日 個別相談件数 1,813件
開所日数	292日
職員数	常勤専任6名、非常勤5名
その他	計画作成 40名 地域定着支援 2名 移動支援 5名 実習生受入 13名・118日間

#### 事業報告

精神障害のある人が自分らしく、地域で安心して暮らしていけるよう年間を通じて様々な事業に取り組んできた。10月に実施した『グループ法律相談会・特別版』では、中南米諸国における障害者権利条約に基づいた先進的な法改正に深くかかわってきたアンドレア・パラ氏を南米コロンビアより、3月に実施した『ピア活動地域交流会』では、病院・自宅への訪問活動や音楽を通じた教育機関への啓発活動に取り組んできた塚本正治氏を大阪より、それぞれ招聘してメンバーと意見交換を行った。これらは、日常における人権侵害の体験や、当事者が感じている苦労や思いを語り合う貴重な機会となった。また、人や場と繋がりがたくても、その機会が途絶えてしまった方のもとを訪ね、当事者の力を活かして一緒に外出や余暇支援を行うピアガイドヘルパー事業を10月より開始し、延べ31件の活動を実施した。

#### <活動内容>

- ・全体ミーティング、ピアミーティング、スマイル(当事者活動)、サイコドラマ、WRAP、当事者研究、体験発表、防災プログラム、就労ミーティング、ランチほか各種プログラム・クラブ活動の実施
- ・ピア活動地域交流会、ふれあう訪問ツアー、退院応援ミーティング、ピアサポート活動を学ぶ見学研修会、ピア派遣事業ほかピアサポーター養成・支援事業の実施

#### <地域との連携>

川崎市障害支援区分認定審査会委員、川崎市障害者施設事業協会施設長会、川崎市障害者施設事業協会精神障害者支援施設分科会、川崎市地域活動支援センターA型情報交換会、地域活動支援センターA型の機能に関する懇談会委員、麻生区精神保健福祉カンファレンス、川崎市北部相談支援事業所連絡会、川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援協議会、ピア活動地域交流会実行委員会、ピアサポート連絡会、麻生区社会福祉協議会ボランティア活動振興センター運営委員会、北部リハビリテーションセンター運営調整会議、北部リハビリテーションセンター防犯・防災対策委員会、北リハフェスタ実行委員会

## 5、苦情報告

かねてより事業所による報告件数に差異があることが課題となっており、苦情の取り上げ方について、苦情に限らず要望等も報告にあげるという共通認識をもち取り組んだ。件数としては昨年度の2.7倍、内訳としては苦情34件、要望、希望、相談等47件となり、より利用者の声を反映した結果になったと言える。内容としては「職員の接遇」に関するものが最も多く次いで「サービスの質・量」に関する要望が多く聞かれた。「権利侵害」では障害への配慮を求める声や、不適切な発言に対する訴えとなっている。申し出の多くが事業所と当事者の二者間での話し合いにより解決するものであり、常日頃から丁寧に向き合うことで苦情まで至らないと考えられる。

苦情件数合計												
申出人			内容						結果			合計
本人	家族	他	職員の接遇	サービスの質・量	説明情報提供	被害損害	権利侵害	その他	解決	検討(継続)	未解決	
71	4	6	30	21	7	5	4	14	71	6	4	81

## 6、事故報告

事故件数 15件（利用者10件、職員2件、その他3件）			
内容		件数	詳細（※は帰結状況）
重大事故 5件	骨折、全治1ヶ月以上の重傷 （うち救急搬送）	1 (0)	・転倒による骨折  (利用者1件)
	所在不明	2	※施設内に在所 ※警察保護  (利用者2件)
	犯罪行為等	2	・窃盗未遂 ・盗難の被害  (利用者1件、その他1件)
その他	打撲、全治1ヶ月未満の軽傷 （うち救急搬送）	7 (3)	・腹痛 ・火傷 ・転倒による脱臼 ・転倒 ・急性アルコール中毒 ・熱中症 ・病状による警察保護  (利用者6件、職員1件)
10件	その他	3	・製品の自主回収2件 ・動画の誤った公開  (職員1件、その他2件)

令和6年度は15件の事故報告があり、注意喚起や確認、体制の整備等によって予防出来たと思われる事故も多かった。事故発生時には速やかに必要な措置を講じると共に、重大事故の場合は所管課へ連絡を行っている。また、再発防止に向けた対応・対策や取り組みについて各所内で協議の上で事故報告書を作成し、所管課へ提出している。